城郭だより

日本城郭史学会会報

〒一七四八六一 東京都板橋区板橋北郵便局私書箱第50号
TEL〇三三九六七一九四八

第132号　令和8年1月

弘前城　天守内部入場不可へ

青森県弘前市によると、弘前城本丸の石垣修理完了に伴い、二〇二六年七月から、総重量約四百トンの弘前城天守を曳屋工法で移動を始めるという。十一月には十一年ぶりに元の位置に戻る予定。八月二一日から二三日には市民参加型のイベントも開催される予定。

曳屋工事に伴う体験イベント「曳屋ウィーク」の様子。2015年9月

弘前城天守は二〇一五年度、天守台から北西方向の本丸中央に約七四メートル曳屋された。本丸石垣に崩落の危険性が指摘され、石垣の解体修理が必要になったためだ。二〇一五年度の曳屋の際も曳屋イベントを開催し、人力で天守を移動させる曳屋体験を行った。弘前市長は「天守綱引きや石垣に触れるなどの各種イベントを計画している」とし、詳細は二〇二六年度の予算編成で検討するが「子供たちをはじめ市民や国内外の多くの皆様に楽しんでいただきたい」と呼びかけた。一方、天守内部については冬季閉鎖される二〇二五年十一月二四日以降入場できなくなる。曳戻し工事の準備の一環で仮設の耐震補強が取り外されるためだ。現時点で想定される内部の閉鎖期間は二〇三二年度までの予定。曳戻しに続く天守の耐震化・保存修理工事の詳細が二〇二七年度実施の調査設計と文化庁との協議によって決定されるため、実際の閉鎖期間はその結果に影響される。市公園緑地課によると内部が複数年にわたり閉鎖されるのは初めてのことだという。「城自体は元の天守台に戻る。石垣も積み直しで美しい形状になるのでそちらのほうを中心にご覧いただきたい」と市長は話している。しかし、二〇二八年度から内部に入場できないだけでなく天守自体の姿が見られなくなる。というのも市公園緑地課によると天守は二〇二八年度の弘前さくらまつり閉幕後、耐震化・保存修理工事のため、素屋根と呼ばれる工事用の仮囲いで覆ってしまうためだ。

（陸奥新報　二〇二五年十月八日記事より）

本丸に仮移転中の天守
（弘前市役所ホームページより）

日本城郭史学会催物・見学会・セミナー案内

二月見学会　下総小弓城

小弓公方足利義明の御所である小弓城跡及び生実陣屋跡の関連史跡を巡ります。

月　日　2月21日（土）12時30分（解散は17時予定）
集　合　京成千原線学園前駅改札口前
案内講師　大橋　健一（史学会委員）
見学地　北小弓城跡、生実陣屋跡、本城公園、重俊院、柏崎砦跡、長山砦跡、南小弓城跡

三月セミナー

月　日　3月14日（土）午後1時～5時
会　場　板橋区立志村グリーカレッジホール3階教室1

発　表①　「豊臣・浅野期の和歌山城と天守」
―隠れた消えた石垣と現れた石垣―
和歌山城の豊臣・浅野期の名残を探し、整備が進む扇ノ芝を石垣・天守と共に紹介し、現在のバリアフリーの様子を伝えます。
発表者　水島　大二氏（史学会委員）

発　表②　「微地形表現図が変える城郭研究」
―宮城県の城館を事例に―
近年公開が進められている微地形表現図を用いて、これまで謎が多かった宮城県城館の姿を解き明かしつつ城郭研究の未来を考える。
発表者　竹井　英文氏（史学会評議員）

発　表③　「西ヶ谷先生が遺してくれた大垣城絵図」
城郭修復図の中でも美麗な清絵図。西ヶ谷恭弘氏が散逸の危機から救ったこの城絵図は何を物語るのか、ひも解く。
発表者　神山　仁氏（史学会委員）

参加費　見学会一〇〇〇円、セミナー二五〇〇円共に会員外は五〇〇円増しです。（セミナー終了後に懇親会がありますので、ご参加の方はお申込み下さい）見学会・セミナーお申込みは当事務局へメールか電話にてお願い申し上げます。懇親会費約五五〇〇円です。